ちちぶだより

2025年　第350号

◇令和７年　新年度の挨拶　齋藤　晴美…… 2
◇特別支援寮について　厚生労働省　施設管理室長　川島　英紀…… 3
発達障害対策専門官　西尾　大輔…… 4
こども家庭庁　発達障害児支援専門官　今出　大輔…… 5
（独）国立のぞみの園　理事長　田中　正博…… 6
◇令和７年度　秩父学園　地域支援課・地域療育支援室・地域移行推進課
・療育支援課各体制について　各課長…… ７～８
◇令和７年度職員配置　山本　香織…… 9
◇各寮の様子　春編　かりん寮　浦野　清美…… 10
けやき寮　秋山　佳秀…… 10
どんぐり寮（特別支援寮）　須永　貴之…… 11
くぬぎ寮　大野さち子…… 11
◇春の行事　鰤解体ショー　庶務課　島田　結実…… 12
◇熊澤海道の「見直せる人に私はなる」　熊澤　海道…… 12
◇職員の動き・入所児童の動き・行事予定　仲川　正徳…… 13～14

令和７年　新年度の挨拶

国立障害者リハビリテーションセンター　自立支援局　秩父学園　次長　齋藤 晴美

日頃より、秩父学園に対するご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

秩父学園では、保護者の皆様、関係機関の皆様にご協力いただきながら、国立障害者リハビリテーションセンター中期目標に基づいて、計画的に取組を進めております。

令和７年度からは、①支援が難しい知的障害児（特に強度行動障害を有する児童等）に対する先駆的・総合的支援、②地域生活移行に向けた支援の充実、③職員派遣、研修等による支援ノウハウの普及を３本柱とした第４期中期目標（令和７年度～令和11年度）がスタートしました。

令和７年４月から、児童一人ひとりの状態像に合わせた丁寧な支援を行うため、100名であった定員を50名に見直すとともに、強度行動障害のある児童の受入れを促進するため、エリアごとにクールダウンスペースを用意するなど、強度行動障害のある児童が安心して過ごせるよう構造化を図った特別支援寮の運用を開始しました。年度当初から特別支援寮の運用開始ができたのは、厚生労働省・こども家庭庁、強度行動障害者の受入れを進めておられる国立のぞみの園様、社会福祉法人はるにれの里様等の多くの方々にご助言やご協力をいただいたおかげです。

特別支援寮での支援は、有期限（最長１年間）有目的の集中的な支援を実施し、児童が秩父学園を退所後、地域で生活できるよう支援体制を構築していくことを目指しています。本取組みを通じて地域の関係機関が連携した支援体制構築のお手伝いができたらと考えています。

また、秩父学園では、全国の知的障害児を支援する事業所等の人材育成に向けて、「発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポート」として、保育所等に対して秩父学園職員を派遣し、派遣先が必要としている支援を行っています。本事業は、こども家庭庁、文部科学省、厚生労働省から連名で発出された「地域における教育と福祉の一層の連携等の推進について（通知）」（令和６年４月25日付課長通知）で、教育福祉連携を推進する研修等として紹介されており、本年度も、①教育と福祉の連携、②市町村との連携について注力していきたいと考えています。一保育所等への支援に留まらず、自治体や関係機関（近隣の保育所、子育てや障害児支援に携わる行政の担当部署など）と連携をさせていただき、近隣の保育所等も含めての合同研修会を行ったり、派遣をきっかけに関係機関の協力体制の構築につなげ、その地域全体の支援力向上に役立てたらと考えております。

特別支援寮の開設にあたり　～今後の展開への期待～

厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　企画課　施設管理室
室長　川島　英紀

特別支援寮の開設まで、調整や検討を重ね、現状の体制の固持に拘ることなく、これまで施設を運営する中で見えてきた課題や社会的ニーズに対応すべく、構想を具現化したことに対して、まずは敬意を表します。

新たな取組のスタートを切ったところでありますので、取組を進める上で、新たな課題等も見えてくると思われますが、これまでに蓄積されたノウハウを存分に活かし、新たな支援技術の開発や関係機関等への支援など国立施設として先導的役割を遺憾なく発揮していただきたいと思っています。

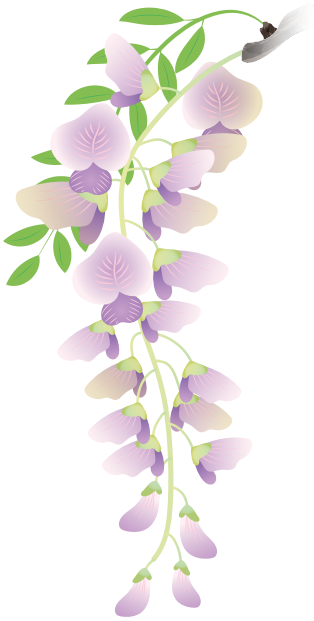
強度行動障害への支援については、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園が正に国立施設として先導的に取り組んでいるところですが、児の施設である秩父学園が本格的に取り組むことで、のぞみの園との連携が図られ､「児」から「者」へのシームレスな支援体制の構築に繋がることが期待でき、これをモデルとして発信することで、各地域での体制構築に繋がることが期待できます。

また、国立障害者リハビリテーションセンターの発達障害情報・支援センターとの連携を強化することで、秩父学園で築き上げた支援技術の効果的かつ効率的な情報提供などに繋がることが期待できます。

さらに、秩父学園で現に行っている各地域に出向いての自治体や事業所への支援において、特別支援寮の取組を活かし、強度行動障害などの支援困難児への対応を強化できれば、支援の質の向上と併せて、質の平準化・均てん化が図られ、全国どこに住んでいても、適切な支援を受けることが出来る体制の整備に繋がることが期待できます。

特別支援寮での実際の取組に当たっては、試行錯誤しながら進めていく部分もあると思います。効果のある支援方法を開発していく上では、上手くいかなかったことも成果として捉えることが重要だと考えますので、そうした事例についても、しっかりと情報発信していただければと思います。

いずれにしても今後の展開では、一つ一つの事例を大事にして、秩父学園、のぞみの園、発達障害情報・支援センターが連携していくことが重要だと感じています。それぞれの施設を所管する施設管理室としましても、支援していく所存ですので、秩父学園においては、改革の手を止めずに障害児に対する支援を推進されることを期待していますし、ひいては国リハの各部門・各施設の活性化の推進に繋がればと期待しています。

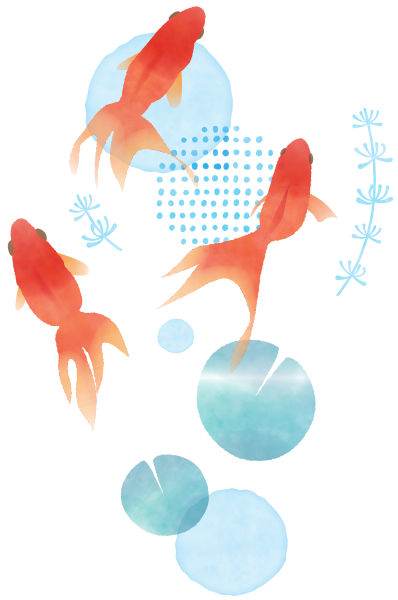


特別支援寮から強度行動障害の状態にある児童の標準的な支援をひろげる

厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　障害福祉課　地域生活・発達障害者支援室
発達障害対策専門官　西尾　大輔

強度行動障害とは、自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別な配慮された支援が必要になっている「状態」です。このような状態が続くことで、学校生活が難しくなることや、福祉サービス等の利用を断られること、そして家庭生活が立ち行かなくなる現状があります。

強度行動障害の要因はさまざまですが、重度の知的障害のある自閉症の方が多く、特に自閉症の特性に合わせた関わりや環境がないこととの関連性が高いと言われています。そのため支援者は、一人ひとりで違いのある自閉症の特性をアセスメントして、強度行動障害の状態を引き起こしている環境要因を調整していくことが必要です。この支援の流れが強度行動障害の状態にある方への「標準的な支援」です。



「標準的な支援」とは画一的な支援ではありません。一人ひとりの違いを尊重したオーダーメイドの支援となります、そのための個々の障害特性をすぐに理解することは難しいかもしれません。まず支援チームでアセスメントをして、実践をして、その後に評価をします。結果うまくいかないことがあったとしても、新たに確認できた情報として、アセスメントに追加し、再度、実践をして、評価をするという流れを繰り返していきます。これを支援のマネジメントサイクルと呼びます。「標準的な支援」では、このマネジメントサイクルで得られた情報を根拠として、本人の生活の質の向上を目指す取り組みをしていくことが大切です。

特別支援寮では、強度行動障害の状態にある児童への有期限（最長１年間）で有目的の集中的な支援を実施します。この期間は「標準的な支援」が実施されますので、前述しましたように、多様性を尊重した支援となります。つまり特別支援寮での支援の期間は、自閉症らしさを小さくするような治療的な介入のためではなく、アセスメントから児童一人ひとりにとって力を発揮しやすい環境を考える時間です。そして、この期間に得られたアセスメントや情報を地域の支援者に伝えて、居住地で本人の自己実現に向けた支援が実施されるようにつながりを創ることが最も重要です。

特別支援寮が発信する「標準的な支援」が、全国の発達障害のある児童にかかわる支援者に、個々の障害特性をアセスメントして環境調整をする大切さと、児童と家族の多様性を尊重する視点を広げるものになればと期待しています。

特別支援寮への期待
～強度行動障害の状態を有する児への取組み～

こども家庭庁支援局　障害児支援課
発達障害児支援専門官　今出　大輔

１．はじめに

幼児期からの個々のこどもの特性と家族の状況に応じた適切な関わりが、将来の強度行動障害の状態の予防や軽減につながることが「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書（令和５年３月　厚生労働省）」において示されました。幼児期から強度行動障害の状態が表れる可能性を把握し、関係機関が連携して、ライフステージを通して、こどもの育ちや生活を支えていく体制づくりが求められています。

２．障害児支援における取組

令和６年度障害福祉サービス等報酬改定では、各種サービスにおいて強度行動障害の状態を有する児者への標準的な支援の評価と共に、地域の支援機能の強化に資するための「集中的支援加算」を新設しています。

・障害児支援の利用希望があるにも関わらず強度行動障害の状態を理由に支援につながらない状況
・障害児支援を利用していても、自傷や他害等、本人や周囲に影響を及ぼす行動が非常に激しくなり、現状の生活の維持が難しくなる状況
・職員が支援を振り返る余裕がなく疲弊し支援力が落ちていく支援現場の状況等

に対して、都道府県等に配置される高度な専門性により地域を支援する広域的支援人材が、適切なアセスメントに基づく有効な支援方法の整理を行い、環境調整を進めていく取組を評価しています。

３．各地域の支援体制のバックアップ

各地域においては、強度行動障害の状態の予防を含めた支援体制の構築は喫緊の課題であり、支援ニーズを把握し、教育等との連携を含めた支援の提供体制の確保に努めることが求められています。

しかし、支援体制の構築の進捗には地域差があり、強度行動障害の状態を有するために、こどもの育ちや家族の生活等が保障されない状況があった場合、唯一の国立福祉型障害児入所施設として、

・こどもを一定の期間、障害児入所施設で受入れ、
・通学先の学校との連携体制を構築した上で、
・適切なアセスメントに基づく有効な支援を実践し、
・地域の支援機関等と支援方法を共有し、強度行動障害の状態の軽減等を含めた、こどもの育ちや生活を保障する支援が実践されるようにフォローアップ等を行う、

等のバックアップを行う役割が求められています。

４．今後にむけて

今後も引き続き、各地域において強度行動障害の状態の予防も含めて、こどもをまんなかにした支援体制の構築が進められるよう、秩父学園特別支援寮の役割を果たしていただけるよう期待しております。

令和６年度障害福祉サービス等報酬改定について
https://www.cfa.go.jp/policies/shougaijishien/shisaku/hoshukaitei

のぞみの園と秩父学園の支援連携の推進強化に向けて

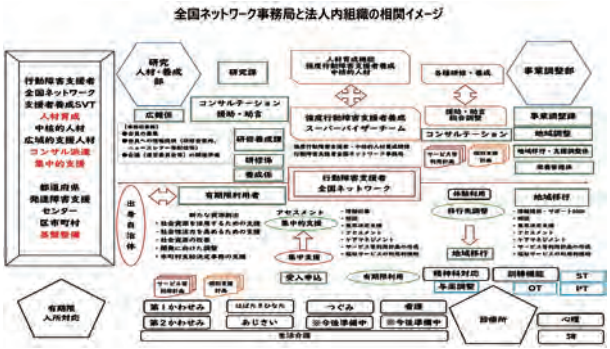
国立のぞみの園　理事長　田中　正博

秩父学園で取り組みが始まった、特別支援寮の展開に大いに期待しています。

国立のぞみの園（以下：当法人）では、行動障害の方を中心に有期限（２年間を目処）の入所事業を展開し、強度行動障害の状態になった18歳以上の方を受け入れています。行動障害が著しい状態であった方の特性を踏まえ、環境調整（標準的支援）を通して生活に落ち着きをもたらし、地域で暮らしが見通せるように支援していきます。現在40名の定員に近い方々を受け入れ、待機者も30名を超えています。令和７年度からは、申込者の出身県の協力を得ながら、「集中的支援」を活用して待機中に支援の空白が生じないよう、きめ細かな状況把握に努めていきます。

行動障害のある方を支えていくためには、発達障害ゆえに生じる困難な状況（生活や学習上の不適応、対人関係のつまずき、二次障害など）に陥らないよう児童期より継続的かつ予防的に対応することが欠かせません。秩父学園とは、こうした支援を展開していくために連携し、安定した生活が送れる支援がシームレスに届けられる体制を整え、国立機関として都道府県にあり方を示していきたいと考えています。特に思春期から青年期にかけてのライフステージにおける支援では、精神科医療と福祉的支援が協働できるような支援体制の構築が必要です。児童精神科医師との連携を図り、秩父学園との連携も強化していく方向で調整しています。さらに当法人でも、必要に応じて15歳以上の著しい行動障害の状態にある児童の受入を検討中です。

令和５年度、国では「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」を開催し報告書にまとめました。これを受けて当法人の第５期の目標には、「著しい行動障害等を有する者の支援体制の強化を図るため、先進事業所との連携を進め、支援等についての全国的ネットワーク構築（ICT活用を含む）に向けた必要な取り組みを行い、障害者支援の質の向上に寄与する。」が加えられました。そのため行動障害支援者全国ネットワーク（仮称）を立ち上げる準備を進めています。ネットワークでは、広域的支援人材、中核的人材の広がりにあわせ、都道府県ごとの地域支援体制整備に関するサポート能力を高めていく必要があります。そのため広域的支援人材、中核的人材をはじめとする支援者間を中心にネットワークを構築し、情報の共有や人材の派遣等を調整するとともに地域支援体制の整備を各地で進め、都道府県ごとにネットワークが構築されるよう当法人としてもバックアップしていきます。秩父学園には、発達障害情報支援センターと共に国立機関としてネットワークの構築に協力をいただければと思います。



令和７年度地域支援課体制について

地域支援課長　渡邉　浩伸

地域支援課は、ボランティアの方々、幼児療育、学童療育等による地域とのつながり、自閉症スペクトラム症子育て支援セミナーの開催、研修生の受け入れ、他機関との連携など、外部との接点を多く持つ課です。現在ある繋がりをさらに広げ、より強固にしていきたいと考えています。令和７年度地域支援課のモットーは、「国の施策やニーズを踏まえた新たな取り組みを追求し、地域のニーズに向けた検討・実践をするとともに、課職員は『俯瞰の目』を養う」です。令和７年度は、国立障害者リハビリテーションセンター第四期中期目標の初年度にあたります。今年度の地域支援課は、地域支援課４名、地域療育支援室４名の職員体制です。特別支援寮での集中的支援には、今年度より地域支援課に配置された強度行動障害支援推進官も積極的に関わっていきます。初めての取り組みですので、数々の困難があるかと思いますが、課室の垣根を越えた協力、綿密な連絡及び連携に努め、秩父学園一丸となって進めていきたいと思います。地域支援課一同、今後も関係機関や社会のニーズ変化を敏感に察知しながら、「俯瞰の目」を養うことを常に念頭に置いて、それぞれが業務にあたっていきます。

令和７年度地域療育支援室体制について

地域療育支援室長　真壁　毅

今年度の地域療育支援室は、４名の職員で業務にあたります。

幼児通園療育事業、発達障害児等デイサービス事業等には、生活寮からの併任職員、心理療法士、作業療法士等の専門職の協力を仰ぎながら事業を行っていきます。

幼児通園療育では、保育所・幼稚園に通園する発達や行動が気になる幼児を対象に、週に一度グループ療育を実施するとともに、保育士・幼稚園教諭等を対象にした支援方法の実践研修を行う保育実践研修も行います。

発達障害児等デイサービス事業では、発達や行動が気になる児童及びそのご家族を対象とし、集団活動への適応を目指した療育支援とご家族への支援を行います。

他にも、発達や行動が気になるお子さんを支援する職員を対象とした「発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポート」の事業を引き続き実施します。全国の事業所へ出向いて、あるいはｗｅｂを利用して、発達や行動が気になるお子さんの見立てを行ったり、事業所内の研修講師を務めたりと、それぞれの場所で必要とされるサポートを提供していきます。

今年度も、地域療育支援室に通園するお子さんやご家族のサポートを中心に事業を展開していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域移行推進課体制について

地域移行推進課　課長　村上　功二

令和７年度が始まりました。今年度は、私の後任（自立支援主事）と児童調査主事の２名が異動となり、４名体制で入所・移行業務にあたります。昨年度は、グループホームに７名、入所施設に３名の計10名が移行しました。グループホームへの移行が多くなったことで、ご家族のご自宅から近い地域で暮らせることが多くなり、本当の意味での地域生活移行ができている気がします。しかし、強度行動障害と言われる、破壊、他害、自傷、奇声等の行動が多い児童に関しては、入所もグループホームも簡単には移行出来ないのが現状です。そのため、強度行動障害者の支援に関する養成研修が各県で実施され、多くの職員が受講しています。また、地域支援マネージャーという各県での関係機関連携の役割を担う職員も配置されてきています。入所に関しては、昨年度は特別支援寮の開設のため、ストップしていましたが、３月末より開始しています。女性と特別支援寮（強度行動障害児）を中心として段階的に入所を進めていく予定ですが、秩父学園から次の大人の施設も見据えた、途切れのない移行支援を、各県、各市町村に働きかけながら進めていきます。今後もご家族、関係機関の皆様、移行に関わる見学、会議、その他手続き等、ご協力よろしくお願いいたします。

令和７年度療育支援課体制について

療育支援課長　伊藤　隆

園内に咲き誇った桜に見守られながら今年度がスタートしました。

今年度は、国立障害者リハビリテーションセンター第４期中期目標（５年間）の初年度に当たります。令和７年度運営方針に掲げた、（１）支援が難しい知的障害児（特に強度行動障害を有する児童等）に対する先駆的・総合的支援、（２）地域生活移行に向けた支援の充実、（３）職員派遣、研修等による支援ノウハウの普及、に対して成果を上げるべく、職員一同、これまで以上に着実に尽力して参ります。

昨年度は、10名の方々が秩父学園を退園され、それぞれの生活の場へと移行されていきました。それぞれの方々がより充実した生活を送られることを願いつつ、引き続きアフターフォローも実施していく予定としております。

一方で、今年度は、特別支援学校に１名、高等特別支援学校に４名の方々が入学されました。緊張した面持ちで登校する姿を拝見し、ご本人たちが不安無く学校生活を送ることができるよう、各職員も最良・最善の支援の提供に努めることをあらためて確認しました。

さて、秩父学園では、今年度４月より特別支援寮（どんぐり寮）の運用を開始しました。強度行動障害の状態を有する児童に最長で１年間の有期限で入所していただき、集中的な支援を提供させていただくこととしています。特別支援寮の運用開始に当たっては、既存寮に入所いただいている児童の方々にも寮移動をお願いするなど、大きな寮再編を実施しました。かりん寮、けやき寮、くぬぎ寮を含めた全寮において標準的な支援を導入し、今まで以上に児童の方々への支援がご本人に効果的に提供されるよう取り組んで参ります。

年度を通じて児童の方々が安心して生活を送れるよう、事故や怪我の無いように留意して支援に当たりますので、引き続き各方面よりお力添えをいただきたく思います。

令和七年度　職員配置

園長　阿久根　徹
次長　齋藤　晴美

《庶務課》

課長　武居　貴裕
課長補佐　片寄　寛
庶務・会計・給食係長　山本　香織
会計係　浜　渉
事務補助員（庶務係）　関口　桂子
事務補助員（給食係）　橋本　知恵
栄養士　島田　結実
調理師　戸村　浩
調理補助員　吉田　泉
落合　良浩
井上　誓子
髙山　香苗
青木　壽子
渡沼　洋子

《地域支援課》

課長　渡邉　浩伸
強度行動障害支援推進官　石田　昭人
地域支援主事　仲川　正徳
山本　優子

地域療育支援室

室長　真壁　毅
大舘　桂子
星　美弥子
高橋　早紀

《地域移行推進課》

課長　村上　功二
松本　昂紀
山本　文世
山本　歩実

《療育支援課》

課長　伊藤　隆
療育支援主事　久郷　英伸
発達支援主事　柗上　耕祐
強度行動障害支援主事　中田　竜太
医療連携担当　島田由起子
心理療法士　坂寄　里紗
心理療法士　阿部　萌
言語聴覚士　生方　歩未
作業療法士　戸川　鎮男

かりん寮

寮長　浦野　清美
岡崎恵美子

どんぐり寮（特別支援寮）

寮長　須永　貴之
日野　憲文
野口　修史
齋藤　祐一
勝又　祐貴
飯田　涼大
清水　康平
上小路希美
木﨑　聖捺
遠藤　信治

けやき寮

寮長　秋山　佳秀
津留　信久
伊藤　幸恵
小林　隼人
今泉　千愛
渡辺　愛子

櫻井　朋子
植田　萌衣
太田　夏子
岡部　智子
山崎　玲子

くぬぎ寮

寮長　大野さち子
金　秀行
滝澤　剛敏
米光　恭祐
坪井　敦憲
舘内　圭子
三浦　秀真
星　湧人
斉藤　里美

特別支援室

土屋　麗
加瀬　優奈

園生医務室

副看護師長　佐久間裕子
看護師・医事管理主事　石川美奈子
看護師　箕輪　梨恵
看護師　山崎さやか
看護師　清水　智恵
看護師　岡元　照秀
看護師　堀越　徳浩
看護師　原島二三子

各寮の様子　暖かかった春編

かりん寮

学園内の桜の花が咲く少し前に、かりん寮では３名が高等学校を卒業しました。

みんな一緒に入間わかくさ高等特別支援学校を受験した３年前がつい昨日のことのようです。

入学当初は、新しい環境になかなか慣れずにいましたが、沢山の友達や大好きな先生方と出会い、様々なことを学び、経験して卒業を迎えた今、一人でスクールバスまで向かう背中を見て、立派になられたなと感じています。

そんなみなさんを祝うかのように、卒業式を終えると学園では行事が盛りだくさんでありました。卒業を祝う会をはじめ、魚の解体ショーがあったり、キッチンカーがやってきたり、焼き肉パーティーが開かれたり…。連日楽しいことが計画されており、“暇のない嬉しい楽しい春休み”でした。

かりん寮内での今の流行は、“ポケカ（ポケモンカード）”“シールビーズ”です。ホールでまったりテレビを見たり、散歩が大好きで雨が降っても散歩に出かけたりする方も…。十人十色の過ごし方をされています。

今年も立派な桜が咲き、桜吹雪が舞い散る中、かりん寮のみなさんに春休みの話を聞くと、キッチンカーで購入したホットドッグやクレープ、お花見で食べたポップコーンが大評判。いつの時代もかりん寮は“花より団子”です。

浦野　清美

けやき寮

年度の変わり目は別れと出会いがつきものです。けやき寮では１名の児童が所沢特別支援学校中学部を無事卒業しました。春休みには連日のようにイベントが開催されました。「フレンドリーコンサート」では本格的な吹奏楽を鑑賞、「お魚解体ショー」ではブリがお刺身になる様をじっくり見た後にブリしゃぶを堪能、「キッチンカー祭り」ではキッチンカーが出張してきてくれて出来たてのクレープやホットドッグを注文して満喫できました。「１年間お疲れさま会」ではビンゴやカラオケ、ケーキも出てきてそれぞれ楽しむことができました。

新年度が始まると４月３日には２名の児童がくぬぎ寮へ移り、どんぐり寮とくぬぎ寮から３名の児童がけやき寮に引っ越してきました。令和７年度は入間わかくさ高等特別支援学校へ通う児童４名、所沢特別支援学校中学部へ通う児童１名でスタートします。総勢５名の少数精鋭ですので、アットホームな雰囲気づくりを心がけて、皆の笑顔が多く見られるよう日々接していきたいと思います。

秋山　佳秀

どんぐり寮（４月から特別支援寮）

３月から新年度４月にかけてどんぐり寮の皆さんはいつもとは異なる行事を楽しんだり、新年度の変化に向けて準備をしたりと慌ただしく時間を過ごしました。

３月、どんぐり寮の児童の中には中学校と高校を卒業する児童がそれぞれ１名ずつおり、そのうちの１名は秩父学園からグループホームに移行されました。退園前にお別れ会が開かれ、たくさんの職員に見送られて新生活に向けて出発しました。

３月下旬。皆さんが春休みに入ると「１年間お疲れさま会」「お花見」「お魚解体ショー」「キッチンカー祭り」などイベントいっぱいでした。中でもお魚解体ショーは食育を目的に職員が児童の目の前でブリを捌き、新鮮なブリをしゃぶしゃぶで食べるという贅沢な企画でした。どんぐりの児童さんの中には魚嫌いな方がたくさんいる中、ブリを美味しく食

べることができたようで、良い学びの経験になったと思います。

そして新年度。どんぐり寮は特別支援寮として強度行動障害の状態にある児童を受け入れる寮として新たなスタートを切り、場所も以前のけやき寮だったところへ移りました。児童の皆さんには生活の場所を移っていただかざるを得ず、本当に申し訳なく思っております。皆さんにとって安心できる場所にできるよう職員一同努めたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。　**須永　貴之**

くぬぎ寮

くぬぎ寮の３月は、小学部１名、中学部２名の児童が学校を卒業しました。学校が楽しみな児童もいれば、学校に行きたくないな…という児童もいます。行きたくないという気持ちがある児童については、学校の先生と相談したり、児童と話し合ったりしながら、登校に向けて、児童も職員も頑張った毎日でした。卒業式では、卒業生３人とも立派だったという報告を受け、職員みんなで喜びました。

卒業式・修了式を終えると、春休みは、イベント盛りだくさん。イベントではいつもと違う一面を見せてくれる児童たち。静かな環境が好きかと思っていたら、カラオケ大会ではみんなに盛り上がって欲しいとリクエストする児童、おしゃべりが大好きだけれどイベントで一緒になったかりん寮の女の子たちとのおしゃべりには遠慮がちになる児童、普段はあまり食べない魚でもブリしゃぶなら食べられる児童など。どのイベントも楽しそうな児童の様子が印象的でした。まだまだ知らない一面があるのだなぁ、児童が楽しめる機会をたくさん提供したいなぁと強く感じたイベント期間でした。

４月を迎え、寮編制が代わり、くぬぎ寮の雰囲気も変わりました。中学や高校に入学した児童も、新学年になった児童も、新生活に慣れようと頑張っています。日々の成長中のくぬぎ児童たち。全力で応援していくのみです！　**大野 さち子**

春の行事

庶務課　島田　結実

３月25日春休み初日にぶりの解体ショーを開催しました。

ホワイトボードと紙芝居を使って、今日の魚はどこからきたのか？ぶりはどんな魚？名前の由来は？等、クイズも交えながらみんなに説明。

その後大きなぶりの登場！80cm程の魚にみんなも釘付けになっていました。

そして目の前で魚の形から切り身の形へ変身！

切り立ての魚を自分でしゃぶしゃぶにして、好きな調味料をかけて食べました。

普段魚が食べられない児童も進んでおかわりをしたり、大盛況。

魚が苦手な児童が多い中、楽しい体験と結びつき、苦手意識を克服できるきっかけになってくれたらいいな。そんな思いでこれからも、様々な食体験の機会を増やしていきたいと思います。

熊澤海道の「向かい風　反対向けば　超追い風！」

「見直せる人に　私はなる！」

国立障害者リハビリテーションセンター病院　歯科医師　熊澤 海道

こんにちは、純粋に熊澤です（意味不明）。

さて、新年度が始まり、新しいことが始まる一方で今回は､「見直す」ということを考えてみたいと思います。

一昔前の熊澤は､「自分の考えや計画は正しい！だからこのまま同じやり方を続けるんだ！」と他の人の意見も聞かず、会話の始まりは「でも…」や「いや…」など否定から始まる話し方をする（今もする時があります、反省）時期がありました。

そんな熊澤に「見直す」大事さを教えてくれた秩父学園の児童がいます。今、その児童の歯科受診を行うべく支援員さんをはじめ多くの職種で計画を立て支援を行っているのですが、回数を重ねていくと当然ながら想定と違う事態やスムーズにいかない状況に直面します。一昔前の熊澤なら「でも、最初の計画のまま続けよう！」と無理やり押し通していました。が、今は「なんで？」と思い「理由」を考えた上で「皆さんともう一回、その人との計画について見直そう」と考えられるようになってきました。

そうです､「見直すことの大事さ」とは「再評価の重要性」ということだったのです。再評価を行うと、「１秒前と真逆」の意見を言ったりすることも出てくるでしょう。ここで大事なのは､意見を言う側はしっかりと「理由」を、聞く側は一旦冷静に聞いて「話し合う」ということだと熊澤は考えます。

一旦止まって見直して、再び考えアップデートする…こうやってAIさながら進化したいと思う今日この頃です。

❖職員の動き

令和７年３月31日付

杉永　麻菜美　定年退職　（特別指導室長）
齊藤　信哉　辞職　（地域支援課長）
齊藤　奈津子　辞職　（療育支援課長）
飯塚　七海　辞職　（地域療育支援室）
松村　熊三郎　任期満了　（庶務課運転手）
杉崎　純子　任期満了　（地域支援課）

令和７年４月１日付異動職員

時末　大揮（庶務課長）
　こども家庭庁支援局障害児支援課へ
沼津　大嗣（庶務課庶務係）
　こども家庭庁成育局母子保健課へ
佐山　智洋（療育支援課　くぬぎ寮）
　こども家庭庁支援局障害児支援課主査
親松　洋海（療育支援課　けやき寮）
　国リハ第２訓練部へ
金崎　光久（療育支援課　どんぐり寮）
　国立のぞみの園
加藤　稜久（療育支援課　けやき寮）
　国立のぞみの園
加賀　滉樹（療育支援課　けやき寮）
　国リハ学院へ
狩野　絢祐（療育支援課　どんぐり寮）
　国リハ学院へ

令和７年４月１日付異動職員

武居　貴裕　庶務課長
（こども家庭庁支援局
家庭福祉課より）

片寄　寛　庶務課課長補佐
（こども家庭庁長官官房
総務課経理室より）

齋藤　祐一
療育支援課　どんぐり寮
（国立のぞみの園より）

滝澤　剛敏
療育支援課　くぬぎ寮
（こども家庭庁支援局
障害児支援課より）

坪井　敦憲
療育支援課　くぬぎ寮
（国リハ　第２訓練部より）

令和７年４月１日付新規採用職員

石田　昭人
新規採用
地域支援課
強度行動障害支援推進官

小林　隼人
新規採用
療育支援課　けやき寮

今泉　千愛
新規採用
療育支援課　けやき寮

遠藤　信治
新規採用
療育支援課　どんぐり寮

❖入所児童の動き

２月に女児１名、男児１名、３月に男児１名が埼玉県内に移られました。

行事予定

6月7日(土)　わかば祭
7月3日(木)　第１回虐待防止・身体拘束適正化委員会
7月9日(水)　研修報告会
7月22日(火)　プール開き

春の行事の一コマ

編集後記

新しい年度を迎え、学園も新たな取り組みもスタートします。今年は、採れる数が少ないと予想していたタケノコが豊作でした。児童達と一緒にタケノコ掘りを体験、タケノコ探しはその道30年、たくさん見つけて、たくさん掘り出すことができました。

こいつは、春から縁起が良い！良いスタートが切れました。　（仲）

発行日　令和７年６月 19 日
発　行　国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局　秩父学園
住　所　埼玉県所沢市北原町８６０　TEL ０４―２９９２―２８３９　FAX ０４―２９９５―２２５３
chousa-chichibu@mhlw.go.jp